

## 平成 30 年度 砺波高等学校アメリカ研修報告書 (8 日目)

アメリカ滞在最終日を迎えました。朝ホテルからラガーディア空港に向かい、ボストンへと移動します。フライトは順調で、予定よりも早くボストンに到着しました。ボストンでお世話になる GPI の皆さんと合流し、いったん宿泊施設 (ホステル) に荷物を置いてからアクティビティに出発しました。

最初のアクティビティはハーバード大学訪問です。最寄駅のハーバードスクエアステーションでランチを取った後、今回は 3 名のハーバード大学生が生徒達のためにやって来てくれました。3 つのグループに分かれ、早速キャンパスツアーをスタートしました。ようやく慣れてきたニューヨークを離れ、全く異なるボストンという新たな街に降り立ったことで、生徒達のこれまで培ったリアクションや積極性が到着直後はゼロリセットされたかのような様子でした。そのためせっかく足を運んでくれた大学生達も楽しめないのでは、と危惧しましたが、いざキャンパスツアーが始まってみるとハーバード大学生の気さくな人柄にも後押しされ、生徒達は様々な質問を投げかけていました。ハーバードの歴史や人々にまつわる逸話、驚くような豆知識など、その優秀さに限らずハーバード大学は生徒にとって驚きの連続でした。

キャンパスツアーが終了すると、今度は教室で座談会を実施しました。3 名のハーバード大学生が約 15 分間隔で各テーブルをローテーションし、生徒の様々な質問に答えて下さるという非常に貴重で贅沢な時間となりました。セッションはもちろん全て英語で実施されましたが、臆せず生徒達は様々な話題で交流し、学生達からは「感動しました、本当に楽しかった!」とコメントをいただいたほどです。

ハーバードでのセッションを終えると、今度は大急ぎでマサチューセッツ工科大学 (MIT) に移動しました。ここでも 3 名の学生が生徒を迎えてくれました。MIT は日本人学生だったため、より理解を深めるために日本語でのツアーを実施しました。ハーバードと並び世界のトップレベルの評価を受ける同大学ですが、ハーバードと違いキャンパスが非常にオープンで、関係者でなくとも外部から様々な箇所を見学することができました。ガラス張りの研究室の数々は、まさに MIT を象徴する光景であったと思います。ここでもキャンパスツアー後に座談会の機会をいただきました。勉強のコツ、普段の生活について、英語習得法について、なぜ MIT に来たのか、アメリカと日本の大学の違いは、アメリカの大学の入試制度の違いは、高校時代はどう過ごしていたのか、、、先ほどハーバードのセッションでも学生に投げかけた質問をしてみると、人が違っててもどこか似たものを感じます。とても強い意志を持っていること、学びに対して意欲があり、その背景に自分が『したいこと』や『こうありたい』、と思うビジョンが具体的でなくとも何かしらある、ということです。そしてあらゆる面において考え方や行動が積極的で主体的であるとも感じました。多くの生徒達がこの研修において取り組むべき課題に据えていたことを体現している人々との出会いは、生徒の今後に影響を与えるものになったのではと思います。

MIT のキャンパスツアー後は、ディナーを取りながら砺波高校 OB の杉森先生にお越しいただき、プレゼンテーションを実施いただきました。杉森先生は金沢大学の国際基幹教育院に所属されていますが、現在は研修のためにタフツ大学の教育学習センターに半年間こちらにご家族で移住されています。日本から遠くここボストンで、自分達の『先輩』に出会えたことは驚きであったと思います。先生が研究さ

れている教育について、日本とアメリカの違いを中心にご説明いただきました。ここでも、世界の教育のキーワードは主体的であること、積極的であることでした。

そして怒涛のような一日の締め括りは、現地で活躍する社会人ヒロモト氏にお越しいただいてのレクチャーです。一見ごく普通の紳士でしたが、その実相当にアグレッシブで思い立ったら吉日の行動派。自分がやりたいと思うことには全力で挑戦し、ジャズドラム界の巨匠アランドーソンの最後の弟子でありミュージシャン、そして多数のレストランや日系スーパーを経営する起業家の顔を持つ人物です。人を笑顔にすることを生きがいに、そのための労を惜しまず、自分の行動が社会を、世界を、果ては太陽系を変えるのだとユーモアたっぷりに語っていただきました。講演の時間は 19 時半から 21 時半。朝 6 時半の集合から丸半日以上経過し疲労困憊のはずの生徒達ですが、ヒロモト氏のユニークでエネルギッシュな話に終始前のめりでした。

こうして、息つく暇もないボストンの研修も終了しました。たくさんの強烈な出会いをひと時に消化し、自分のものとするのは難しいかも知れませんが、これから時間をかけて体験を振り返り、自分の人生のヒントとして活かして欲しいと思います。このような形式での報告書は今回が最後となります。一声上げることを恐れて踏み出せずにいた生徒達が、今は勇気を持ち、アメリカ研修での学びを実践し始めました。時に一進一退を繰り返すこともあるかも知れませんが、この学びから描いたそれぞれのあべき姿は本物であると思います。その姿に近付いていくために、これから努力を惜しまず全力で自らの人生を楽しんで欲しいと思います。以上、平成 30 年度アメリカ研修最後の報告書とさせていただきます。



キャンパスツアーを担当くださった 3 名のハーバード大学生



ハーバード大学キャンパスツアー①



ハーバード大学キャンパスツアー②



ハーバード大学キャンパスツアー③



ハーバード大学キャンパスツアー④



ハーバード大学キャンパスツアー⑤ジョンハーバード像前で



ハーバード大学キャンパスツアー⑥ジョンハーバード像前で



ハーバード大学キャンパスツアー⑦ジョンハーバード像前で



ハーバード大学生との座談会①



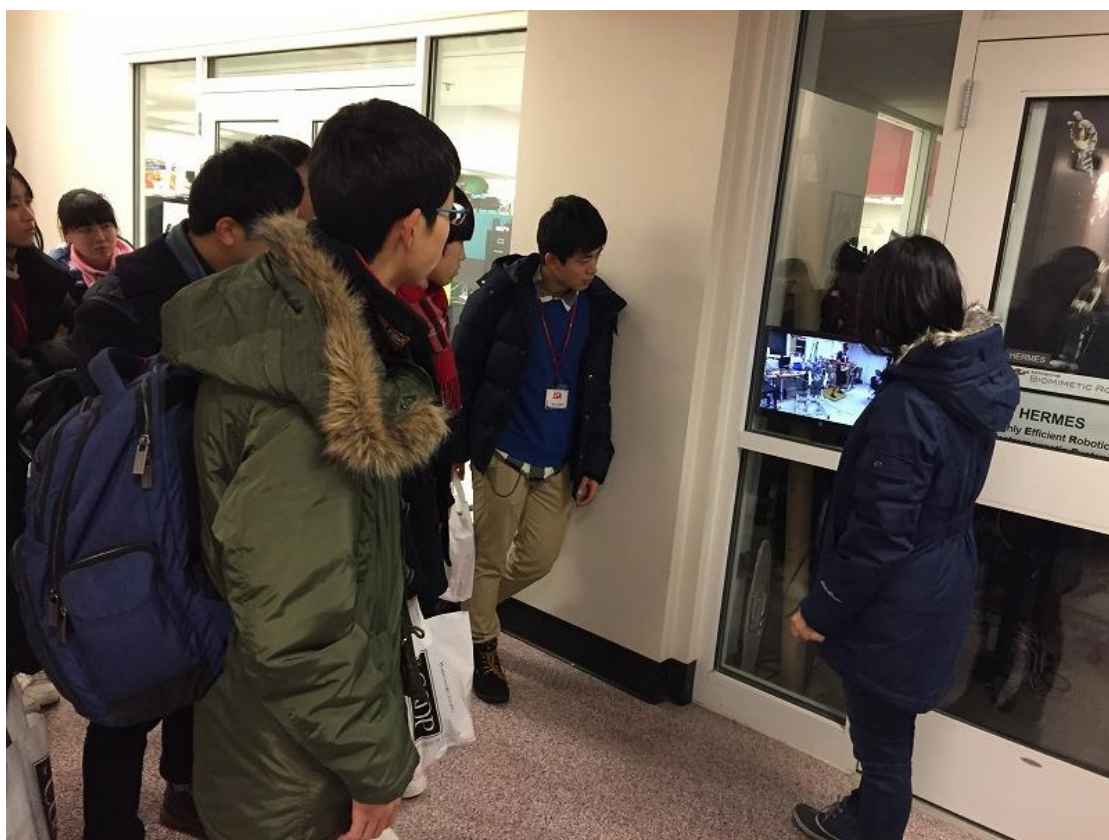
ハーバード大学生との座談会②



ハーバード大学生との座談会③



MIT キャンパスツアー①



MIT キャンパスツアー②





MIT キャンパスツアー③



MIT キャンパスツアー④座談会



砺波高校 OB 杉森先生の講演



砺波高校 OB 杉森先生との集合写真



ゲストスピーカー Kevin Hiromoto 氏のレクチャー



Hiromoto 氏との集合写真